

VI. 懇談会等【共益事業】

(1) 会員懇談会

会員懇談会は、全会員の交流を強化、懇親を図る場である。大臣や閣僚、日本や海外の有識者等を来賓として招き、時宜にあった話題で講演会を開催し、意見交換を行っている。

福島第一原子力発電所の事故原因の究明のために、政府、国会、民間、東京電力の四方面から報告書が発表されたことを踏まえ、第一回は国会事故調査委員会の委員長として報告書を作成された黒川清 政策研究大学院大学 アカデミックフェローを来賓として迎え、「福島第一原子力発電所の事故の検証～国会事故調査委員会の報告書を踏まえて」をテーマに8月27日に開催した。報告書では、歴代、および当時の政府、規制当局、東京電力による人々の命と社会を守るという責任感の欠如があったことを指摘しており、黒川アカデミックフェローより、委員会活動の意義や課題などについて講演いただいた。出席者は90名であった。

第二回は竹島一彦 公正取引委員会 委員長を迎え、「公正取引委員会 委員長の10年を振り返って」をテーマに8月31日に開催した。竹島委員長は独占禁止法の改正に加え、談合や優越的地位を利用した濫用等に対する監視や摘発の強化などの実績を残し、「戦う公取委」に脱皮させた人物として高く評価されているが、10年にわたる任期を振り返りながら、現代の規制や企業結合審査のあり方などについて講演いただいた。出席者は93名であった。

10月19日に開催した第三回の会員懇談会では、東日本大震災から1年半が経過したことを踏まえ、平野達男 復興大臣・東日本大震災総括担当を来賓として迎え、「東日本大震災の復旧・復興の現状と課題」をテーマに開催した。被災地の復興に向けた進捗状況や復興予算の使い道などを含め、今後の政府の取り組みについて講演いただいた。出席者は64名であった。

第四回は藤崎一郎 アメリカ合衆国駐劄特命全権大使を迎え、「米国大統領選挙後のアジア政策と日米関係」をテーマに11月30日に開催した。米国で実施された大統領選挙で現職のオバマ大統領が再選され、二期目を迎える中、米国の「財政の崖」問題やアジア戦略の行方、日本の取るべき対米政策などについて講演いただいた。出席者は57名であった。

毎年恒例となっている同友クラブと合同の「新年会員懇談会」（1月28日開催）は、本会が2020年のオリンピック・パラリンピック招致活動に向けて11月に設置した「東京オリンピック・パラリンピック招致推進PT」（新浪剛史委員長）の活動を踏まえて、竹田恆和（公財）日本オリンピック委員会 会長および山下泰裕 東海大学

副学長の両氏を来賓に迎え開催した。竹田会長からは「2020年東京オリンピック・パラリンピック招致に向けた取り組み」をテーマに、高度成長期に東京で夏季五輪が開催された当時の感動を次世代の若者に伝えるべく、日本オリンピック委員会の招致に向けた今後の取り組みなどについて講演いただいた。また、山下副学長からは「オリンピックへの熱き思いを語る」というテーマの下、ご自身のオリンピック出場経験を踏まえ、東京にオリンピック・パラリンピックが招致された時の意義などについて講演いただいた。

講演の後には懇親会を開催し、2012年ロンドンオリンピック・パラリンピックで活躍された上田春佳氏（競泳、ロンドンオリンピック銅メダリスト）、杉本美香氏（柔道、ロンドンオリンピック銀メダリスト）、田口亜希氏（射撃、アテネ・北京パラリンピック入賞、ロンドンパラリンピック出場）、吉田沙保里氏（レスリング、アテネ・北京・ロンドンオリンピック金メダリスト）の四選手を来賓として招き、参加者と交流を深めた。出席者は121名であった。

（2）会員セミナー

全会員を対象とした情報提供の場である会員セミナー（斎藤博明委員長・松島正之委員長）は、テーマ及び講師を含めた運営方針について、7月と1月に運営委員会を開催して協議した。その結果、多様な会員ニーズに応えることができるよう、政治、経済、国際問題、教育・科学等、幅広い分野から時宜にかなった第一線で活躍している講師を招聘した。

本年度の前半は、昨年度に引き続き東日本大震災関連のテーマや政治的に焦点となった消費税増税を含む社会保障・税の一体改革等のテーマを取り上げた。年度後半には、深刻化した欧州の債務・金融危機と世界経済の展望、主要国でのリーダー交代、衆院解散・総選挙を前にした政治情勢等のテーマを企画した。また景気動向や国際情勢分析のテーマは定点的に企画するとともに、アジア新興国の情勢、医療分野などでも専門家の講師を招聘し、講演いただいた。

本会合終了後には原則的に毎回、講演録である「会員セミナー通報」を会員専用WEBで配信している。なお、2005年度より実施している同友クラブメンバーへの案内も継続し、広く情報提供に努めた。

（3）産業懇談会

産業懇談会（池田守男代表世話人・高橋衛代表世話人）は、会員の相互交流、情報交換を目的とし、14グループがそれぞれの世話人および運営委員を中心に、自主的な活動を行っている。（メンバー総数738名：3月29日現在）

定例会はグループごとに昼食会形式で開催し、メンバーからの話題提供や、外部講師による講演などを行っている。テーマは政治、経済、文化等多岐に亘り、施設見学、グループ合同の懇親会の開催等、活発な活動を展開している。また、毎年恒例の「14グループ合同暑気払い」を7月に開催し、グループの枠を越えたメンバー相互の交流を深めた。

昨年度より世話人および運営委員に任期(1期2年、最長で5期10年まで再任可能)が設定されたことを受け、各グループでは、適宜運営委員会を開催し、世話人・運営委員体制について審議・検討した。各グループの活動状況は以下の通りである。

〔第1火曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を2回開催した。運営委員会では、一年間の活動、次年度世話人・運営委員体制等について討議・決定した。例会では、3人のメンバーから自身の経験や所属企業・業界の現状や取り組みについて、また外部講師からは、金融為替相場、海外の医療事故の現状、インターナショナルスクールを通じた子供の教育、インバウンド化を目指す国内観光の取り組み、歌舞伎や新派等の文化芸能をテーマに話題提供・講演をいただいた。また、他グループとの交流を深めるため、「第1水曜グループ」「第1木曜グループ」との合同懇親会を開催した。

〔第1水曜グループ〕

例会を8回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動、次年度世話人・運営委員体制等について審議・検討した。例会では、メンバーから所属する業界の現状や事業の体験談などについて、また外部講師には、イノベーションとIT、紛争地の武装解除、創発的破壊、日アフリカ関係などをテーマに話題提供・講演をいただいた。また、日本航空オペレーションコントロールセンターの見学会を実施した。さらにグループメンバーの懇親会と他グループとの交流を深めるため、「第1火曜グループ」「第1木曜グループ」と合同で懇親会を開催した。

〔第1木曜グループ〕

例会を8回、運営委員会を2回開催した。運営委員会では、一年間の活動、次年度運営委員体制等について討議・決定した。例会では、メンバー自身の事業の紹介や業界の動向・課題などについて、また外部講師には、語り、財政・金融危機、震災、ミドリムシ、安全保障、政治・経済情勢などをテーマに話題提供・講演をいただいた。さらにグループ間の交流を目的とした見学会・懇親会、そして他グループとの交流を目的とした「第1火曜グループ」「第1水曜グループ」との合同懇親会を開催した。

〔第2火曜グループ〕

例会を10回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動等について検討した。例会では、メンバー自身の事業や業界の動向について、また外部講師からは、TPP、東北復興、政権交代後の中国の見通し、企業コンプライアンス、経済見通しなどをテーマに話題提供・講演をいただいた。さらに、メンバー間の交流を目的とした懇親会を開催した。

〔第2水曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を2回開催した。運営委員会では、一年間の活動、次年度世話人・運営委員体制等について討議・決定した。例会では、新入メンバーを中心に自身の事業や業界に関して、証券決済、CSR、電力・水事業、産業構造組替えによる競争力強化、などについて、また外部講師には、「国宝 迎賓館赤坂離宮」やバチカン、中国問題などをテーマに話題提供・講演をいただいた。さらに他グループとの交流を深めるため「第2金曜グループ」および「第3水曜グループ」との3グループ合同で懇親会を開催した。

〔第2木曜グループ〕

例会は11回（見学会2回を含む）、運営委員会については、一年間の活動を検討する会合を2回、会合テーマに関する打合せを1回、合計3回開催した。例会では、メンバーから次世代リーダーづくりやストック活用時代の不動産流通、金融活性化とITなどについて、また外部講師には、言葉と政治経済、学生気質の変遷と日本の将来、重粒子線によるガン治療、日本経済の展望、中国政経情勢、欧州（金融）情勢などをテーマに話題提供・講演をいただいた。このほか先端技術館や日本航空オペレーションコントロールセンターの見学会を開催し、先端技術や航空管制に関する知見を深めた。

〔第2金曜グループ〕

例会を10回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動等について検討した。例会では、メンバー自身の事業の紹介や取り組みなどについて、また外部講師には、トップが交代した北朝鮮の情勢、最新のLCC、新エネルギーのメタンハイドレート、アフリカでのNPO活動などをテーマに話題提供・講演をいただいた。さらに他グループとの交流を深めるため「第2水曜グループ」および「第3水曜グループ」との3グループ合同で懇親会を開催した。

〔第3火曜グループ〕

例会を10回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動等について検討した。例会ではメンバー自身の所属する企業・業界の状況について、また外

部講師には、教育・海洋資源再生・政局・MBAなどをテーマに話題提供・講演をいただいた。さらにメンバー間の交流を目的とした懇親会を開催した。

〔第3水曜グループ〕

例会を10回、運営委員会2回を開催した。運営委員会では、一年間の活動、次年度世話人・運営委員体制等について審議・検討した。例会では、新たにグループに参加されたメンバーを中心に、自身の事業の紹介や業界の動向、コーポレートガバナンス、美術などについて、また外部講師には、セカンドライフ、ソーシャルネットワーク、金融政策、外交問題等のテーマに話題提供・講演をいただいた。さらに建設中の東京駅丸の内駅舎において見学会を開催した。また、他グループとの交流を図るため、「第2水曜グループ」および「第2金曜グループ」との3グループ合同で懇親会を開催した。

〔第3木曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を2回開催した。運営委員会では、一年間の活動、次年度世話人・運営委員体制等について討議・決定した。例会では、メンバーからは証券金融、感動のビジネス化、成層圏から見たオーロラ、航空産業などについて、また外部講師からは中国ビジネスで求められる人材像、日本の電力政策、プーチン新政権下のロシア、新しい大人文化とビジネス創造、2013年の金融経済見通しなど多岐にわたる内容について話題提供・講演をいただいた。また、日本経済に大きく貢献した東京スカイツリーの見学会を実施した。

〔第4火曜グループ〕

例会を10回、運営委員会を2回開催した。運営委員会では、一年間の活動等について検討した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の現状や取り組みについて、また外部講師には、イースター（復活祭）、日本経済の展望、日本女子サッカーの活躍についてなどをテーマに話題提供・講演をいただいた。また、グループ内の交流を深めるため懇親会と椿山荘見学会を開催した。

〔第4水曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動等について検討した。例会では、まだ話題提供をいただいていないメンバーを中心に、自身の事業の紹介や業界の動向などについて話を伺った。また今年度は、財界人の果たすべき役割などをテーマとしたディスカッションを取り入れた話題提供も実施した。外部講師には、インフラとしての日本の鉄道の海外展開をテーマにご講演をいただいた。さらにメンバー間の交流を深めることを目的とした懇親会を1回開催した。

〔第4木曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動、次年度世話人・運営委員体制等について討議・決定した。例会では、新たにグループに参加されたメンバー自身の事業の動向や業界の動向などについて、また外部講師からは、ヨーロッパの財政危機、日本の人口崩壊と移民政策、剣道指導と人間教育、ミトコンドリアや葉緑体の分裂の仕組み、認知症高齢者の介護、多極化する国際構造における日本の貢献等をテーマに話題提供・講演をいただいた。また、新年懇親会を開催し、親睦を深めた。

〔第4金曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動、次年度世話人・運営委員体制等について討議・決定した。例会では、メンバー自身の業界動向を中心に、バス事業の再生、新たな人材活用のあり方について、また外部講師には、スポーツビジネスの成長戦略、LCCの特徴と将来性、伝統芸能の継承と人材育成、地域活性化、日中経済関係、被災地経済復興支援、人気番組制作の舞台裏などをテーマに話題提供・講演をいただいた。さらにメンバー間の交流を目的とした懇親会を開催した。

（4）経済懇談会

経済懇談会（殿元清司世話人、浦田晴之世話人）では、1997年の発足以来、企業の第一線の経営者（副社長・専務・常務・執行役クラス）によりメンバーを構成し、自主運営による活動を行っている。

本年度の活動は、「多様化する経営環境下での企業成長 ～グローバル社会を勝ち抜く経営モデル、人材育成、イノベーションとは～」をメインテーマに、メンバー各社における取り組み事例の紹介、外部有識者からの問題提起に基づく討議、及び施設見学会を中心に運営した。

メンバー構成は、業種の多様化を目的に、24名中7名の新メンバーを迎えて活性化を図った。

具体的な活動としては、2012年10月から2013年3月までに定例会合（原則として毎月2回：朝会形式）を10回、施設見学会を2回開催した。

定例会合では、日産自動車、日本生命保険、富士ゼロックス、三菱地所、キッコーマン、マッキンゼー各社の取り組み事例に基づく話題提供および意見交換を行った。外部有識者のヒアリングでは、新しいことに取り組み・イノベティブに挑戦する企業として、井上慎一 Peach Aviation 代表取締役 CEO より日本初の本格的 LCC ビジネスの現状や課題および展望について、また世界の潮流を定点観測されている寺島実郎

(一財)日本総合研究所 理事長より世界の構造転換と今後の日本の進路について、講演と意見交換を行った。

施設見学会では、1月にANA 訓練センターと東京駅を訪問した。ANA 訓練センターでは、パイロットの操縦シュミレーションの実体験とキャビンアテンダント訓練の実情を把握した。東京駅では、東京駅丸の内駅舎と東京ステーションホテルの各施設を視察した。

2月には長谷川閑史代表幹事を招き、グローバル化における日本や日本企業が取るべき方向性に関する講演と意見交換を行った。

最終回では、メンバーの山梨広一 マッキンゼー&カンパニー・ジャパン ディレクターより本年度の活動の総括を行い、意見交換を行った。

(5) 創発の会

創発の会(立石文雄座長)は、本会入会2年以内の会員をメンバーとし、委員会活動への本格的参画のためのファースト・ステップとなる場を提供している。具体的には、メンバーと本会幹部会員との忌憚のない意見交換を通じて、本会の理念、先達経営者の気概を伝承するとともに、メンバーからの率直な意見による幹部会員への触発を図るなど、本会活動の活性化を目的としている。

会合は原則として毎月1回夕刻より開催している。毎回、幹部会員からの問題提起に基づく意見交換やグループディスカッションを行った後、引き続き、懇親会(ドリンクパーティ)を開催し、新入会員間ならびに幹部会員との親睦を図っている。

今年度は、7月に正副座長会を開催し、経済同友会の基本方針に基づき、創発の会が果たすべき役割についての認識の共有を図った上で、今年度の活動と運営内容について討議した。その結果、今年度は「経済成長」、「志」(企業経営・経済同友会活動)、「震災復興」をテーマに企画運営することを決定した。

前期(第1回~第4回)は長谷川閑史 代表幹事より「成長への決断と実行—イノベーション創出とダイバーシティを軸に—」、前原金一 副代表幹事・専務理事より復興と成長への決断と実行をテーマとした「夏季セミナー報告」、北城恪太郎 終身幹事より「イノベーションによる経済活性化」、小林喜光 副代表幹事より三菱ケミカルホールディングスの経営戦略として「持続可能な経営」、小林栄三 副代表幹事・アジア委員会委員長より「国際経済の関心事とアジア委員会の活動」をテーマに開催した。

また、後期(第5回~第8回)は、野路國夫 幹事より、「コマツのグローバル経営戦略」、野田智義 東北未来創造イニシアティブ協働 PT 委員長より、「本 PT の活動内容と今後の課題等について」開催した。最終回は、金丸恭文 30年後の日本を考える PT 委員長を招き、30年後の将来像の基本理念や将来ビジョン、実現にむけたロ

ードマップ等を紹介された。その後、グループ討議のテーマとして「人口減少についてどう考えるか～移民受け入れや少子化対策の有効な手立てを考える～」が提示され、メンバーは6つのグループに分かれて討議を行い、最後に各グループより討議成果の発表が行われた。

2012年度創発の会メンバー総数は、年度当初から40名増加し、3月末時点では204名となった。2013年3月には、創発の会の設立趣旨の通り、活動期間が満2年を経過したメンバー81名の修了式を行った。

(6) リーダーシップ・プログラム

リーダーシップ・プログラム（桜井正光委員長）は、幅広い視野を有し、社会のリーダーとしても活躍し得る次世代の経営者育成を目的に、会員所属企業から本会に未入会の若手役員（主に取締役、執行役員）を対象に2003年度から開始し、今年度で第9期目となる共益事業活動である。昨年度までに合計187名が本プログラムを卒業され、その後49名が入会している。

今年度は23名のメンバーが、2012年7月～2013年2月下旬の間に、9回の会合と2回の合宿を行い、優れた経営を実践している経営者や様々な分野で活躍されている方々の話を伺いながら、「リーダーのあり方」「経営論」「人材育成」など幅広く意見交換を重ねた。経営者・有識者とともに、他社の同様の立場であるメンバーとの交流を通じ、「自らのリーダーシップのあり方」や「企業経営」について、客観的に考える機会となった。

◆ 各会合にご来臨頂いた講師の方々

- ・岡崎哲二 東京大学大学院 経済学研究科教授
- ・生田正治 商船三井 最高顧問
- ・牛尾治朗 ウシオ電機 取締役会長、経済同友会 元代表幹事
- ・小林喜光 三菱ケミカルホールディングス 取締役社長、
経済同友会 副代表幹事
- ・宮内義彦 オリックス 取締役兼代表執行役会長
- ・藤森義明 LIXIL グループ 取締役代表執行役社長兼 CEO、
経済同友会 副代表幹事
- ・小枝 至 日産自動車 相談役名誉会長
- ・福井俊彦 キャノングローバル戦略研究所 理事長

- ◆ 2回の合宿では、「自分の考える『リーダーシップとは』」、「社長就任演説」と題し個人スピーチを行い、更に「各社の経営課題」についてグループ討議を行

った。

- ・軽井沢合宿（2012年8月下旬実施） 軽井沢プリンスホテルウエスト
講師：桜井 正光 リコー 取締役会長執行役員、経済同友会 前代表幹事
講師：長谷川閑史 武田薬品工業 取締役社長、経済同友会 代表幹事
- ・宮崎合宿（2013年2月下旬実施） フェニックス・シーガイア・リゾート
講師：富山 和彦 経営共創基盤 代表取締役 CEO
講師：北城格太郎 日本アイ・ビー・エム 相談役、経済同友会 元代表幹事
講師：前原 金一 経済同友会 副代表幹事・専務理事

（7）ジュニア・リーダーシップ・プログラム

ジュニア・リーダーシップ・プログラム（北城格太郎委員長）は、2011年度人材・育成活用委員会（橘・フクシマ・咲江委員長）が2012年5月に発表した『「意思決定ボード」のダイバーシティに向けた経営者の行動宣言』に基づき、ダイバーシティ実現のための次期上級幹部を育成することを目的に、本年度設置した新しいプログラムである。本プログラムは、会員所属企業から本会に未入会の部長職を対象に23名が参加し、2012年11月よりスタートした。

本年度の会合では、経営革新、ダイバーシティ、企業の社会的責任などについて革新的な経営をされてきた経営者の方々や有識者の方にご講演いただき、意見交換を重ねた。本プログラムの運営の特徴は、参加者が「単に講演を聴く」ことを目的とするのではなく、それぞれの講師の話をきっかけに「経営革新、ダイバーシティ、企業の社会的責任」について考えていくことを目指しており、毎回の対話や意見交換から得られたことや、今後、自身に生かせる内容などについて毎回所感文の提出を求めている。

2012年度の活動としては、2012年11月～2013年3月までに6回の会合を開催し、2013年度上期まで活動を予定している。

◆ 講師

- ・北城格太郎 日本IBM 最高顧問、経済同友会 元代表幹事、
ジュニア・リーダーシップ・プログラム 委員長
- ・橘・フクシマ・咲江 G&S Global Advisors Inc. 取締役社長、
経済同友会 副代表幹事
- ・岡崎哲二 東京大学大学院 経済学研究科教授
- ・木川 真 ヤマトホールディングス 取締役社長、経済同友会 幹事
- ・長谷川閑史 武田薬品工業 取締役社長、経済同友会 代表幹事
- ・林野 宏 クレディセゾン 取締役社長、経済同友会 幹事